

にくの会

平成二十三年、二月九日、神保町のとある和食店で「にくの会」は産声をあげました。お肉でも食しながら、俳句を二句ほどひねろうか、という冗談のような呼びかけの下、集まってきたのは、俳句は五、七、五、でつくればいいんでしょ？
なあっていうことしか知らない初心者が十数名でした。

そんな仲間が、「世の中には句会というものがあるらしいから、とりあえず皆で試行錯誤してなんとかやってみましょうか、」と毎月九日をにくの会の句会としました。私たちの句会では、詠んできた句を無記名で回覧し、出席者が其々いいと思う俳句を五、六句選び、人気のあつた句から順にその感想を述べ合い、鑑賞しています。私たちの句会はとにかく楽しい。

俳句を媒介にして、普段味わえないような高尚で妙味があつて、面白みもある、そんなコミュニティケーションがとれる場です。

日本人なのに知らなかった季語や漢字も次から次に出てきて大変勉強にもなります。皆同窓生なのでその楽しさ、嬉しさも倍増です。

俳句を使って真剣に遊んでおります。

途中から俳人で「天為」編集長の四七年卒、対馬康子さんにも時間が許せばご参加いただくようになりこの一年で少しは俳句らしいものも詠めるようになりました。

この場をお借りして披露させていただきます。